

IV. 目標とする樹林

樹林を整備するにあたっては、目標とする樹林を設定する必要があります。

目標とする樹林は、整備対象地のもつ立地条件特性（気候、地形）と、現存する生育種の構成、および周辺の植生状況を総合的に判断して設定します。

基本的には樹林整備の基本方針である**落葉広葉樹林を目標樹林**として設定します。

なお、良好な常緑広葉樹林（極相林）や社寺林に隣接する地域などでは、常緑広葉樹林を目標樹林として設定することもあります。

立地条件特性から選定候補となる群落・群集

標高	落葉広葉樹林			常緑広葉樹林		
	谷	斜面	尾根	谷	斜面	尾根
750m以上	ブナ-シラキ群集 (極相林)		コナラーアバマキ群集			
	コナラーアバマキ群集					
450~750m	エノキ-ムクノキ群集		コナラーアバマキ群集	ウラジロガシ-サカキ群集 (極相林)		
	コナラーアバマキ群集					
450m以下	エノキ-ムクノキ群集		コナラーアバマキ群集	コジ-カナメモチ群集 (極相林)		
	コナラーアバマキ群集			アラカシ群落	ウバメガシ群落	

(落葉広葉樹林)



●コナラーアバマキ群集

アカマツ-モチツツジ群集と共に、六甲山を代表する林です。つい20~30年前にはアカマツ林だったところのマツが枯れてコナラーアバマキ群集になった、という林も多くみられます。

IV 目標とする樹林



●エノキ-ムクノキ群集

水害時には土砂が崩れ落ちるような、谷筋や斜面の下部などのできる林です。国蝶のオオムラサキ（幼虫）は、エノキの葉を餌として、落ち葉の裏側で越冬します。



●ブナ-シラキ群集

六甲山では唯一の落葉広葉樹の自然林です。高海拔域（750m以上）にこくわずかに残されています。この林の構成種によって、六甲山の植物の種類がより豊かなものとなっています。

(常緑広葉樹林)



●ウラジロガシ-サカキ群集

六甲山の中海拔域（450~750m）において、神社やお寺の林として保護されてきた貴重な林です。はげ山になるまで伐採し尽くされた林が六甲山系の大部分を占める中、かつて広がっていた常緑広葉樹林の構成種を今に伝えています。

IV 目標とする樹林



●コジエーカナメモチ群集

六甲山の低海拔域（450m以下）において、お寺の林として保護されてきた立派な林です。六甲山が広くはげ山だった時代にも、林として存在していたことが、江戸時代末期の絵図や明治時代初期の地形図などからわかっています。



●ウバメガシ群落

ウバメガシの林冠が連なり、まるで、林の上に濃い緑のカーペットを上げたように見える林です。海岸沿いの急斜面に見られる林で、六甲山では須磨地区周辺に広がっています。



●アラカシ群落

林冠にアラカシやヤマモモ、ヒメズリハなどが優占する群落です。谷沿いの急傾斜地に成立している常緑広葉樹林の多くはこの群落です。表六甲の山麓を中心に、分布が広がっています。

V. 整備が必要な樹林

六甲山は緑を取り戻しましたが、六甲山の樹林の中には土砂災害防止上好ましくない状態のものもあります。こうした樹林は、さらに人の手により、適正な整備・管理を行っていく必要があります。

樹林整備を必要とする植生としては、以下のような植生があげられます。

（高木林：良好な樹林へ転換する必要がある樹林）

●ニセアカシア群落

ニセアカシアは根が浅く広がるため倒れやすく、また、ネザサが生い茂っているため、次世代を担う後継樹が育っていません。



森林の様子



倒木したニセアカシア

●スギ-ヒノキ群落

スギ、ヒノキの植林です。間伐を行わないと林の中が暗くなり、下層植生が発達せず土砂流出が起こりやすくなります。



森林の様子



ヒノキ（左） スギ（右）